

# 北海道えりも町へのカツオノエボシの漂着について Stranding of *Physalia physalis* on the beach of Erimo town, Hokkaido

石川 慎也 1)

はじめに

カツオノエボシ *Physalia physalis*(Linnaeus)は、美しい藍青色をしており、熱帯域の外洋に暮らしている。非常に強い刺胞毒を持ち、管クラゲ目カツオノエボシ科に属している。カツオノエボシという名前は、もともとカツオの訪れを告げるクラゲとして、三浦半島や伊豆半島で古くから呼ばれてきた事に由来するという。著しく発達した烏帽子状の気泡体により海面に浮かび、春から夏にかけて季節風により帆走することで、本州太平洋沿岸に流れてくることが知られている(並河他,2000)。しかし、これまで北海道では十勝地方での記録(中司,2006)があるのみであったが、2006年9月と2010年10月に北海道日高管内えりも町で、カツオノエボシの漂着を確認したので報告する。

2006年9月

2006年9月には、10日に5個(図1)、14日に3個、15日に3個、合計11個のカツオノエボシの漂着を百人浜で確認した(表1)。

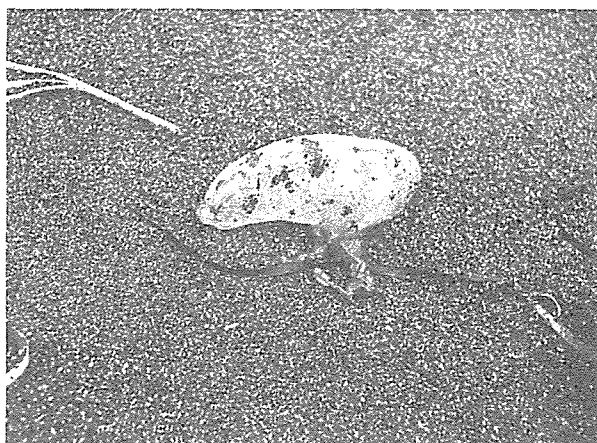


図1. 2006年9月10日のカツオノエボシ

1) えりも町交流促進センター 襟裳岬「風の館」

〒058-0343 北海道幌泉郡えりも町字東洋 366-3 E-mail : kaze@coral.ocn.ne.jp

表1. えりも町でのカツオノエボシの漂着確認数

年	月日	場所	個数
2006年	9月10日	えりも町百人浜	5
	9月14日	えりも町百人浜	3
	9月15日	えりも町百人浜	3
2010年	10月27日	えりも町手助浜	1

8月27日発生した台風12号は、南鳥島を直撃した後、本州から離れた太平洋上を北上したが、9月5日には岩手県北部沿岸や北海道胆振日高地方に被害をもたらし、JR日高本線では高波に打上げられた丸太に列車が衝突するという事故も発生している(北海道新聞,2006)。その台風による大波で、百人浜にも大量の漂着物が打上げられた。カツオノエボシと同じ頃、コアホウドリ、アカウミガメ、アナアブラギリ、ヤシの実など暖流系の漂着物が多く打ち上げられていた。

2010年10月

2010年10月27日に、襟裳岬すぐ西側にある手助浜で、カツオノエボシ1個の漂着を確認した(図2)。前日の26日には、低気圧の影響で襟裳岬では風速15m/sを超える強い西風が吹いていたため、当日は手助浜には多くの漂着物が打上げられていた。その中にはオレンジ浮子、ブナの殻斗、トチの実、ギンカクラゲなど普段あまり見かけることのない南からの漂着物が多くまじっていた。

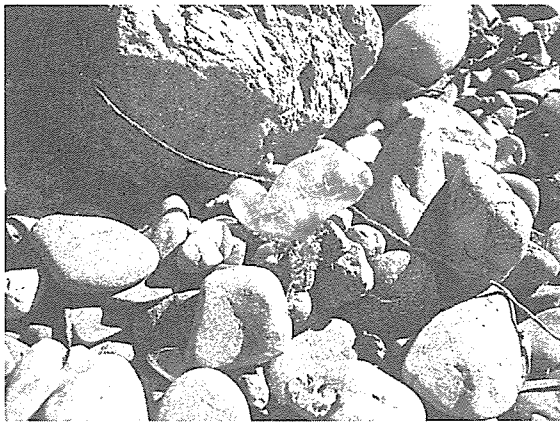


図2. 2010年10月27日のカツオノエボシ

カツオノエボシの気泡体は、長径部分が13 cmに達するものもあるが、5 cm位の小型のものが多い(奥谷他 1994)。今回、漂着したカツオノエボシについて、気泡体の大きさを図ることができたものについて、表2に示した。最大で長径が68 mmであり、最小は18 mmであった。大きさも5 cmほどあり、色も藍青色と砂浜では良く目立ち、漂着物の中からすぐに発見することができた。しかし、北海道では、カツオノエボシの刺胞毒の険性が(寺本 1991)あまり認識されていないので、不用意に触ることがないよう注意が必要である。

表2. 気泡体の大きさ (mm)

サンプル No	日付	長径	高さ
a	2006/9/10	55	25
b	2006/9/10	53	30
c	2006/9/10	31	18
d	2006/9/10	18	17
e	2006/9/15	68	28
f	2006/9/15	55	27
g	2010/10/27	47	19

2005年以降、北海道沿岸では暖流系生物の漂着が相次ぐようになり、石狩湾ではムラサキダコ *Tremoctopus violaceus gracialis*、ギンカクラゲ *Porpita pacifica* (鈴木 2009)、アオイガイ

*Argonauta argo* (志賀 2007)、ルリガイ *Janthina prolongata* (鈴木・志賀 2008) などが記録されている。また、えりも町内でもココヤシ *Cocos nucifera*、ミフクラギ *Cerbera lactaria* Buch.などの漂着が記録されている(石川 2007)。海岸を歩いて漂着物に注目し、データを収集し調査を続けることは、海の環境の変化を記録することである。今後は、より定量的な調査方法を確立していく必要があると考える。

貴重な写真を提供していただいた様似町郷土資料館の田中正人氏、十勝地方のカツオノエボシの漂着について情報提供いただいた芽室町の中司光子氏、帯広市の小林真樹氏に、末筆ながら感謝申し上げます。

#### 引用文献

- 内海富士夫 (1956) 原色日本海岸動物図鑑. Pp166. 保育社
- 奥谷喬司・楚山勇 (1994) 海辺の生きもの. pp367. 山と溪谷社
- 久保田信 (1992) ヒドロ虫の仲間たち. 動物たちの地球 61.pp24-25.朝日新聞社
- 志賀健司 (2007) 北海道石狩湾におけるアオイガイの大量漂着. 漂着物学会誌 5.39-44
- 鈴木明彦 (2009) 海岸漂着物から読む地球環境. Ship & Ocean Newsletter203.6-7
- 鈴木明彦・志賀健司 (2008) 2008.2007 年秋における北海道石狩湾へのルリガイの漂着. ちりぼたん 39.22-24
- 寺本賢一郎 (1991) クラゲの水族館. Pp152.研成社
- 中司光子 (2006) 昆布刈石4連発④. のらっうしん No.609
- 並河洋・楚山勇 (2000) クラゲガイドブック. pp118.TBSブリタニカ
- 北海道新聞 (2006) 2006年9月7日記事. 北海道新聞社